

朝夕は肌寒さを覚え、ようやく秋の到来を肌身で感じられるようになりました。

季節感を先取る七十二候では、今日この頃を蟄虫坏戸（むしかくれてとをふさぐ）、3月初めの啓蟄の蟄虫啓戸の時に巣から這い出てきた虫たちもそろそろ冬ごもりをする頃合いとしています。一方、地から空に目を転じますと、9月から始まった「タカの渡り」がピークを迎えています。冬の到来を前に集団で東南アジアに渡る仲間待ちや気流待ちのために群れをなして旋回飛行している光景をこう呼んでいます。

よく言えば、虫たちの冬眠は、春から秋まで精を出したことへの労い、タカの渡りも子育てにハードワークしたことへの褒美のバカンスではないでしょうか。冬眠するもの、そうでないもの、渡るものととどまるもの、それぞれが冬の構えに勤しむ姿を目の当たりにするにつけ、生きとし生けるものへの共感を覚えるのも秋がなせる業かもしれません。

それでは、過去2か月間の発掘調査とセンターイベントを紹介いたします。

発掘調査だより

岡遺跡第8次調査

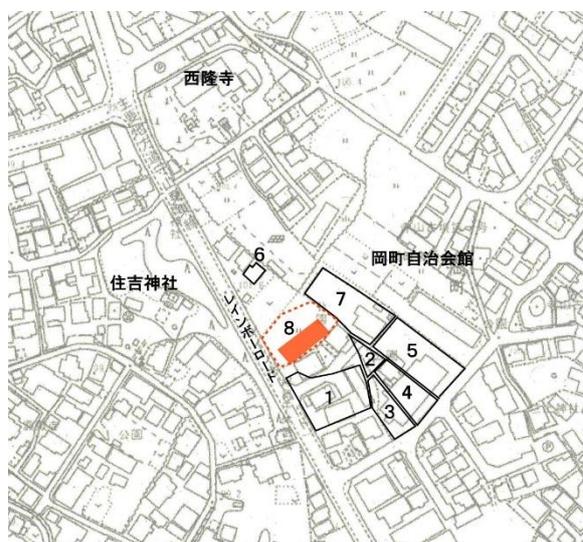
縄文～鎌倉時代の集落跡として周知されている岡遺跡の第8次調査を8月25日より10月末までの期間で実施しています。今回の調査地（8）は図のとおり、レインボーロード（琵琶湖大橋取付道路）東側の耕作地で、既往調査7地点が近接しています。

調査は建物建築箇所約300㎡を対象に実施しており、現在までのところ、弥生時代終末の竪穴建物2棟と土坑、古墳時代後期の竪穴建物4棟、そして時期の下る多数の柱穴を主な検出遺構として挙げるすることができます。

古墳時代後期の竪穴建物には、カマドが造り



岡遺跡遺構検出写真



岡遺跡調査位置図（数字は調査回数）

付けられていて、出土須恵器からは6世紀代の時期がうかがえます。南側の第1次調査地（現在は宅地）でも古墳時代後期の竪穴建物19棟が検出されていることから同一集落の北域にあたるものと考えられます。

調査途上であり、今後、多くのことがわかってくるものと思いますので、次号の乙貞で報告いたします。（沖田）

目田川改修工事関連 吉身西遺跡発掘調査 ～整理調査だより

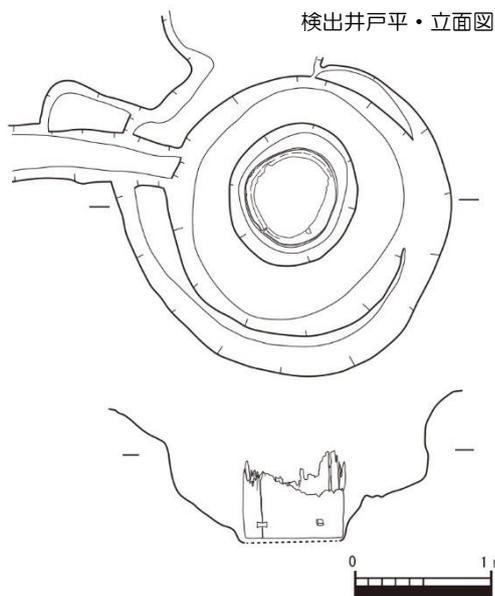
昭和末から平成にかけて実施した目田川改修工事に係る吉身西遺跡の発掘調査、その成果の再整理を行っています。特筆すべき成果をその都度、乙貞で報告しています。

今回は、全長約500mの調査範囲の中程に設けた第74次調査で出土した井戸の井筒を報告します。

右図のとおり、74次調査地は中央やや南側に設定した調査区で、その東端で検出した落ち込みを掘り下げると、直径約2.5mの円形状の井戸の掘り方が現れ、更に深さ約1mまで掘り下げると井戸底に据え置かれた木を割り抜いた井筒が見つかりました。井筒とは、井戸の湧き水が濁らないように



目田川関連吉身西遺跡調査位置図



検出井戸平・立面図



井筒（割抜き桶）

する浄水施設です。井戸は、考古学的には弥生時代中期以降に使われるようになりますが、井戸に使われる井筒は、時代や地域によって千差万別で、割物桶以外にも、時期が下ると、曲物や組桶も一般的な井筒として使われますが、円筒埴輪を代用したものまで見つかっています。

今回出土した井筒は、針葉樹の一木を割り抜いています。4片に割れた状態で出土しました。大きさは、高さ約65cmで、直径70～80cmの楕円形状で、上辺では1cm程の厚みも下辺では、内面を突帯状に削り出しているため、約9cmと厚くなります。この個所に底板を嵌め込む割抜き桶の典型的な特徴です。

割れた4片のうちの2片の外面には、千切り継ぎの跡が残っていました。千切り継ぎとは、両端が幅広の形をした千切り（別材）を割れた2材に嵌め込み、接合する木工技法です。現在でも、無垢材のテーブル板の割れの補修によく用いられていますが、古墳時代前期まで遡る例はそう多くはないようです。

このような補修歴が見られることから、おそらく貯蔵用に使われていた割抜き桶が割れたため、千切り継ぎで補修した。しかし、使えなくなったので、底板を抜いて井戸の井筒に再利用したと推測することができます。

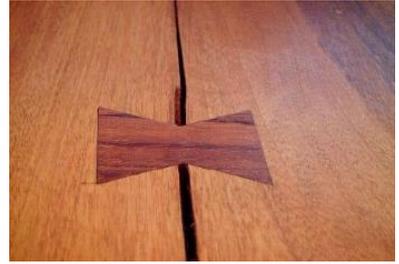
全国的にも、このような割抜桶は弥生時代後期から古墳時代前期に盛行します。そして、井筒に転用した例は、近畿地方の遺跡で数例確認されています。もし、この井筒がかつて水もの桶として使われていたのなら、井戸水が枯れないように験を担いだのかもしれませんが。



井筒内面の突帯状の削り出し



外面の千切り継ぎの跡



現在の千切り継ぎ製品

トピックス topics トピックス topics トピックス topics トピックス topics

11月15日（土）開催 秋季講演会

「湖南地域の古墳文化と渡来人たちの邂逅」

受講者募集中です！

令和7年度 秋季講演会
2025
11月15日（土）14:00～

**「湖南地域の古墳文化と
 渡来人たちの邂逅」**

金 守大 氏（滋賀県立大学准教授）
 守山市立埋蔵文化財センター2階会議室
 受講無料・定員80名（事前の受講申し込み必要）

9月18日（木）より受講受付開始
 お問い合わせ・受講申し込み
 守山市立埋蔵文化財センター
 守山市服部町2250番地
 受付時間 午前9:00～午後4:00（毎週火曜日は休館日）
 TEL&Fax **077(585)4397**
 Email: maibunkanzai@city.moriyama.lg.jp
申込受付期間：令和7年9月18日（木）～9月25日（木）
 定員80名（先着順）

縄文時代から近世にかけて、朝鮮半島諸国や中国などから日本列島に移り住んだ人々やその後裔を渡来人と呼んでいます。

わけても、4世紀～7世紀の古墳時代から飛鳥時代に海を渡ってきた人々はその数も多く、歴史的にも重要な役割を果たしました。

大陸・半島と日本列島には、文化や技術に歴然とした差があった時代で、渡来人は、農耕をはじめとした先進の技術や文化をもたらし、日本の政治・文化を進展させ、古代国家誕生になくてはならない存在だったのです。

日時 11月15日（土）午後2時～

演題 「湖南地域の古墳文化と

渡来人たちの邂逅」

講師 金守大さん（滋賀県立大学准教授）

場所 埋蔵文化財センター2階会議室

定員 80名（事前申込み要・先着順）

申込先 守山市立埋蔵文化財センター

TEL 077（585）4397

これまでの乙貞や新着情報は、『歴史のまち守山』や Facebook からご覧いただけます！



◀ 歴史のまち守山はコチラから

<http://moriyama-bunkazai.org>

守山市立埋蔵文化財センターFacebook ページはコチラから▶

<https://www.facebook.com/MaibunMoriyama/?ref=bookmarks>



歴史入門講座 第3・4講を開催しました！

歴史入門講座、第3講は8月16日（土）、第4講は9月20日（土）に開催しました。

第3講は「坂本城跡の最新調査成果」と題し、大津市文化財保護課の岡田有也さんにご講演いただきました。宅地開発を契機に始まった調査ですが、幻の城とされる坂本城三の丸の石垣が白日の下に晒された時の感動話には受講者の多くが固唾を飲んで聞き入っていました。

第4講の講師、滋賀県文化財保護課の岩橋隆浩さんには、「安土城の発掘調査～平成の調査から令和の調査へ～」をテーマに講演していただきました。

安土城の発掘調査85周年の節目を迎えたことから、昭和、平成の調査成果を検証したうえで、現在進行している令和の調査のこれまでの成果と今後の課題についてお話ししていただきました。



第3講開催風景



第4講開催風景

織田信長の時代、「近江を制する者は天下を制する」の言葉どおり、琵琶湖岸には、長浜城、大溝城とともに要衝の近江の水運と陸路を睥睨するかのよう威容を誇っていた坂本城、安土城について学ぶことができました。

9月18日、講座のテーマとなった坂本城跡、安土城跡はそれぞれ、国史跡指定、特別史跡追加指定が官報告示されました。

岡田さん、岩橋さんには、お忙しい中、ご講演いただいたことに謝意を表するとともに、今後の更なるご活躍をお祈りいたします。

【後記】4月13日に開幕した2度目の大阪万博、EXPO2025 大阪・関西万博も残すところ2週間足らずで閉幕を迎えますが、目標として掲げられていた総入場者2,820万人は達成されそうな見通しです。現在の人口は約1億2千3百万人余り、単純計算では、4.4人に一人が来場した勘定になります。一方、半世紀前に開催されたEXPO70 大阪万博の入場者は約6,400万人を数え、当時の人口約1億3千7百万人からは1.5人に一人となり、動員率に大きな差があります。

昭和と令和の東京五輪と大阪万博に立ち会ったものの感想ですが、1964年開催のオリンピックは戦後復興の到達点であり、かたや1970年の大阪万博は高度経済成長のダイナミズムから生まれた一大イベントという認識を官民はもとより国民も共有していたように思います。三波春夫さんや坂本九さん、吉永小百合さんなど名だたる国民的歌手がプロモーション曲の「東京五輪音頭」、「世界の国からこんにちは」を競作していて、日本国中に高揚感が漂っていました。

翻って、令和の万博は、国家的イベントというよりは、やや関西ローカルのイベント感がありました。昭和の東京五輪と大阪万博の開催は、新幹線や名神高速道路建設の動機付けとなり、その後のインフラ整備の起爆剤となりました。「偉大なる村」と擲揄されていた東京をはじめ、日本国中の街並みの小綺麗さは今やインバウンドの賞賛がやみません。

令和のオリンピック、万博の開催終了に伴い、今後、どのような功罪を生むのか。開催そのものよりも興味がそそられます。今回は懐古厨的な文面に終始してしまいました。（馬耳東風）